

2015年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	吉田 紀子		
NAME			

1. 研究課題

（和文）ジェームズ・ティソの合成作画法—ルーヴル美術館訪問シリーズ（1883～1885年）を中心に—

（英文）

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究では、19世紀フランスの画家ジェームズ・ティソが1883～1885年に手掛けた油彩画のうち、ルーヴル美術館訪問の場面を描いた複数作品を検証対象とした。「合成作画法」という概念に基づいて、油彩画、版画、ポピュラー・イメージ（広告、雑誌挿絵）、写真などの多様な視覚文化領域にあるイメージを自在に変換、加工、転用するティソの作画プロセスを明らかにすることを目的とした。

2年の研究期間中に、2度の海外調査（フランス国立図書館、フランス国立美術史研究所図書館ほか）を実施し、また国内機関（ポーラ美術館、文化学園大学図書館ほか）でも関連作品や文書資料の調査に当たった。さらに国内外の学会・研究会において隣接する研究テーマをもつ研究者と意見交換し、本研究の理論的枠組みを補完する有効な視点を得た。

これまでの調査を通して、ルーヴル美術館訪問を主題とした一連の作品は、ティソが《パリの女》シリーズの対作品として構想した《外国人の女》シリーズの一部を成すことが判明した。また制作過程において、マネやルノワールといった同時代画家の油彩画を意識するだけでなく、ファッションや生活文化を扱った雑誌掲載の挿絵版画も積極的に参照していたことが実証された。10年以上におよぶロンドン生活を経てパリ画壇への本格復帰を目指してティソが構想した両シリーズの制作背景、造形的特徴、同時代評価などについてさらに精査し、今後、研究成果をとりまとめていきたい。

（英文）